

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371100583
法人名	有限会社 きずなの里
事業所名	きずなの里 みなと
訪問調査日	平成20年9月2日
評価確定日	平成20年10月3日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2371100583		
法人名	有限会社 きずなの里		
事業所名	きずなの里 みなと		
所在地	名古屋市港区東茶屋一丁目462番地 (電話) 052-302-2057		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年9月2日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成20年8月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤	20人, 非常勤 4人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(120,000 円) 無	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年8月5日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.2歳	最低	59歳	最高	89歳
協力医療機関名	中川胃腸科・外科、南陽病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名古屋市南西部の田園地帯に位置し、訪問時には町中では聞かれなくなったつくつくぼうしの声をバックに、稲穂がうつむき加減に揺れていた。身寄りのない方、または親類と疎遠な高齢者の生活支援・後見・身元保証などをサポートするNPO法人「きずなの会」と志を同じくし、認知症高齢者の生活支援としてホームを運営している。そのため他のホームから生活保護を受けている方の受け入れを依頼されることも多い。管理者も職員もそれらの事情を踏まえて、入居者を「同居する家族」として対応している。共同生活であることから入居者に自制を求めることもあるが、理念にもとづき家族として入居者一人ひとりに、役割を積極的に分担してもらっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回までは運営推進会議の議事録を掲示、回覧して職員に周知していたが、今年から職員の意見の反映と、外部の声を知ってもらうために各フロアリーダーを運営推進会議メンバーに加えた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員が取り組んだが、自己評価の結果から代表および管理者は、職員の評価への関心が薄いと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会役員、協力医、訪問看護ステーション所長、きずなの会職員、協力病院の看護師をメンバーとしていたが昨年の外部評価を受け、今年から各フロアリーダーをメンバーに加え、職員への浸透を図っている。防災訓練、リスクマネジメント、食中毒などについて活発にメンバーから提案されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見や不満は家族代わりにきずなの会に対し、管理者が個別に対応している。身寄りのない入居者が多いことから家族会も成立しない。要望、苦情窓口は契約書にも明記され、入居時に本人、きずなの会担当者に説明し、相談苦情ファイルも準備されているが活用されることがない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会からはホームを一軒の家として扱われ、町内行事にも誘われている。近所から果物や花、衣服など頂き重宝している。管理者が地元出身ということもあり、開設時に地域から反対はなかった。ただ、周囲が田畑なので散歩する範囲内で行き交う人も限られてしまう。運営推進委員会メンバーの地域代表者から、同会議で医師に直接話が聞けると、喜ばれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	身寄りのない方、家族と疎遠な高齢者の生活支援、身元保証などをサポートしている「きずなの会」と志を同じくし、認知症高齢者の生活支援として設立したホームで、地元出身者がほとんどいないという実情もあり、『地域密着』としての理念は見直していない。		地元出身者がいなくても生活の基盤となる地域は、災害などいざという時一番頼れる存在である。今後も継続し「きずなの里」を入居者の生活の本拠として、その地域の中での入居者の理想の姿を職員とともに検討していきたいことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員がいつでも確認できるように廊下に掲げている。「ありがとうとお互いに言い合える関係」という理念にもとづき、職員からは絶えず感謝の言葉かけが実行されている。「入居者は家族でありお客さまではない」との理念の下、入居者にも役割を担ってもらい、時には自制を求めホームの規律を保っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会からはホームを一軒の家として扱われ、町内行事にも誘われている。近所から果物や花、衣服など頂き重宝している。管理者が地元出身ということもあり、開設時に地域から反対はなかった。ただ、周囲が田畑なので散歩する範囲内で行き交う人も限られてしまう。運営推進委員会メンバーの地域代表者から、同会議で医師に直接話が聞けると、喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が取り組んだが、自己評価の結果から代表および管理者は、職員の評価への関心が薄いと感じている。「身寄りのない高齢者の終の棲家」という意識が強く、日々の介護が充実していることは、介護計画の見直しなどからも確認できる。		きずなの里の入居者の特殊な状況を踏まえたうえでなお、家族がいないということは逆に指摘する人が誰もいないということであり、外部の声である評価を活用し、外部の目を通して自分たちの介護を振り返り、より入居者に喜ばれるホームづくりへの取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>町内会役員、協力医、訪問看護ステーション所長、きずなの会職員、協力病院の看護師をメンバーとしていたが昨年の外部評価を受け、今年から各フロアリーダーをメンバーに加え、職員への浸透を図っている。防災訓練、リスクマネジメント、食中毒などについて活発にメンバーから提案されている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事故があった場合は行政に報告し、再発防止に向けての検討がされている。災害時の避難場所での入居者受け入れにつき、ハード、ソフト両面で疑問、困惑を抱きながらも、今一歩行政への要請、協議に踏み出せないでいる。</p>		<p>日常の入居者の生活充実のためにも、行政が保有する情報、サービスをうまく活用、協働できるような行政との取り組みに期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ほとんどの入居者に家族がおらず、いても遠隔地で疎遠だったりするため、家族への報告は物理的に不可能である。家族代わりのきずなの会には隔月のホーム便りを届けており、同会の職員もよくホームを訪問している。金銭管理については弁護士法人から委託され、定期的に同法人により確認がされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満は家族代わりのきずなの会に対し、管理者が個別に対応している。身寄りのない入居者が多いことから家族会も成立しない。要望、苦情窓口は契約書にも明記され、入居時に本人、きずなの会担当者に説明し、相談苦情ファイルも準備されているが活用されたことがない。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定期異動はなく、開設時からの職員も3~4名残っている。年配者から20代まで様々な年齢層の職員がおり、各々の経験が活かされている。入職する場合は1カ月位、先輩職員から実地指導を受け、入居者に馴染んでもらっている。退職職員の補充のため一時的にユニット間で異動することはある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規定では、採用時2カ月以内の現地研修が約束され先輩職員による指導がされているが、現任職員の年間研修計画などはなく、案内が送られてきた研修に随時参加している。内部研修は勉強会の形で有給扱いで実施している。外部研修参加者は研修資料を回覧しているが、費用は個人負担となっている。各資格取得者に対し資格手当が支給されている。		各職員のレベル、スキルに見合った研修のプログラムを考慮されたい。また、外部研修参加者からの報告会など、情報の共有についての取り組みに期待しい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時は同業者の協会にも加盟していたが身寄りのない認知症高齢者の受け入れ先というホームの特殊性から、参考になる事例が少なく現在は加盟していない。他のホームから助言を求められることはあった。勉強会など案内があった時は参加している。交流会は研修などで知り合った他ホームと、双方の都合に合わせて個別で行っている。		きずなの里が有するノウハウを還元するための取り組みとしても、同業者との交流を考慮されたい。また、他のホームの職員が抱える悩み、実情を知ること、一層の自己研鑽に取り組めるよう、職員レベルでの交流の取り組みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの入居者が老人保健施設、病院から緊急の状態での入居であり、通常のように何軒かホームを見学や選択してからのサービス利用という形態は稀である。そのため管理者、職員は施設、病院に出向き、医師、看護師、ケースワーカーから事情を聞き取り、情報を取得している。空き部屋がある場合はいつでも見学可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にも明示されているように、入居者は共に生活する仲間であり、共同生活者として時には自制を求めることや、本人のできる範囲で役割を担ってもらう。自立を促すため極力手を出さず、食事の際も介助することを控え、自らの持てる力を引き出す介護がなされている。食事の後片付け、1ユニット全部の床掃除を引き受けている入居者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「どこでどう暮らしたいか?」「どんな生活をしてきたのか?」など聞きだす家族がいないため入居後に本人から聞きだしている。寺、墓参り、家族に会いたい、以前の住居が心配など本人の意向をかなえるため、きずなの会の移動介助を利用している。外食や買い物などの要望もきずなの会を利用している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人の意見をよく聞き、本人の意見やアイデアをアセスメントに細かく記載し、担当者会議において介護計画を作成している。各フロアのチーフを中心に、職員同士の話し合いが行われ、医師、看護師の意見も取り入れて計画が決定されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画は3カ月ごとに見直され、必要に応じて随時介護計画を作成している。職員が日々の気づきを申し送りノートに記載し、チーフが情報収集し、定期、随時の計画見直しに繋げている。楽しく過ごしてもらうには健康第一と考え、健康チェックに重点を置いている。血圧、脈拍、食事、水分量やその日の顔色、様子まで細かくチェックし記録されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>隔週で協力医の往診があるが、フロアごとに一週ずれているため具合が悪い場合は毎週でも受診できる。入院時も管理者は毎日見舞いに訪れ、洗濯物を受け取る傍ら看護師などから情報を取得している。訪問看護ステーションから週1回看護師が訪れ、健康状態を確認や記録している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族からの健康状態の確認が取れないため、入居時には、協力病院により総合的に診察を受け状態を把握し、適切な医療が受けられるよう支援している。また、以前のかかりつけ医に受診することもあり、きずなの会の通院介助を利用している。往診時、通院時とも報告書に記載し経過や内容が誰でも分かるようになっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化の対応指針、看取りについては入居時に説明がされ同意を得ている。協力医や他の医療関係者とも連携が取れており、本人や代理人、職員の安心にもつながっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時に職員からの個人情報取り扱いの誓約が義務となっており、その後は個人情報の取り扱い方など会議の時や申し送りノートを通して職員に周知、確認している。入居者に対しても本人の誇りやプライバシーを損ねないよう声かけや言葉遣いに気をつけ対応している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>四肢の可動域向上のため、マッサージ、リハビリに通う入居者がいる。ホーム周囲の広い敷地が花壇、歩道になっており、手軽な散歩コースになっている。ホームが企画した買い物、喫茶店ツアーにはバリアフリーの施設を選び、車いすの方も参加している。飲酒、喫煙も可能である。趣味の囲碁や将棋のため暮会所に通う入居者もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理者が立てている。入居者に声をかけ、食事の準備や後片づけなど職員と一緒にしている。入居者の中にはお茶の担当者がいて、全員のお茶を配ってくれる。また、ひな祭りやお誕生会など行事の特別メニューもあり楽しんでいる。食事が食べられなかった人には時間をずらして勧めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂はリラクスの場でありゆっくり入ってもらいたいと考え、各自入浴日を決めている。一人30分位だが中には1時間の人もある。リラックスした中で入居者のいろいろな思い、本音を聞くこともあり職員はその時間を大切にしている。最低週2回は入浴してもらい、入浴嫌いな人には曜日や順番を変えたりして支援している。シャワーはいつでも使用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、金魚の世話、花の水やりなど、一人ひとり楽しみながら役割を積極的にこなしている。職員と一緒に買い物に出かけることを楽しみにしている入居者もいる。いろいろな場面に応じて入居者の気持ちや活力を引き出すよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ではないが近くへ散歩に出かけている。車いす、シルバーカーの人も参加している。あまり外に出たがらない人にはホーム周囲の広い庭で、花を見たり、ベンチに座って気分転換してもらっている。バリアフリーの喫茶店にも出かけている。個人の外出にはきずなの会の協力も得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム開設時は施錠したりセンサーを取り付けていたが、現在は行っていない。今は入居者全員がホームを自分の家だと思っており、外に一人で外出することがなくなった。職員も入居者全員の行動を把握している。日中玄関は解放され空気の入れかえをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練をしており、消防署の協力も得ている。昼間だけでなく夜間の避難訓練も行っており、入居者の反応を知ることができた。備蓄品もラジオ、ヘルメット、紙食器、ラップ、ポータブル便器などが備えられ、水や食料も3日分を用意している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定を行っている。1日の水分量は1,000ccを目安にしている。お茶以外の飲み物も牛乳や乳酸菌飲料などを用意している。水分をあまり摂らない人については、気分のいい時を見計らって声をかけている。		献立表、水分摂取量、摂食量の記載はあるが、一食当たりのカロリーや栄養バランスの表示がないため、その日の或いは1週間、1月単位の実際の摂取カロリー、栄養バランスが把握できていない。献立表を基に定期的に専門的な栄養指導を受けることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は平らになっており座ったままで靴が履けるよう工夫されている。廊下には理念や入居者作成のジグソーパズルが額装されている。洗面台も2台ありペーパータオルを使用し、トイレや浴室も清潔に保たれている。各フロアのリビングには入居者個々の特徴が記され掲示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、ドレッサー、仏壇など馴染みのあるものを持ち込んでいる。家族の写真やぬいぐるみが飾られ入居者の個性が表れている。個室で一人孤立することがないように、テレビの持ち込みはなくリビングでテレビを見ている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。